

モンテネグロ会館改築

木村 敏夫

2019年10月30日（土）茨城県境町のモンテネグロ会館改築工事現場をベロー大使が訪問されました。この改築工事は、新国立競技場設計の隈研吾氏（隈研吾建築都市設計事務所）が設計し、解体・施工は地元の業者が手掛けています。

モンテネグロ会館は、幕末の曾祖父同士（モンテネグロ海軍武官と関宿藩士野本作次郎）の友情を記念し、今から80年前当時のアルゼンチン大使館アルトゥーロ・モンテネグロ公使が資金出資し境町野本家の敷地内に会館を建て、地域の青年研修所や集会所として使用されてきました。

ベロー大使は度々会館を訪問し一昨年には日垂修好120周年友好の証として記念状を会館へ送られました。また永年にわたり維持・管理を続けられた野本勇作氏と田中重男氏に親しく感謝の言葉を語られるとともに労をねぎらわれていました。

日垂友好のシンボルとして会館の発展的存続を望むベロー大使と会談された橋本町長が、予てからの改築構想を推し進められ、地権者の野本勇作氏も快く町へ譲渡し、国の地方創生拠点整備交付金を活用しての改築です。

屋根の梁、柱、壁などは旧会館の古材を再利用し境町とアルゼンチンの温かな触れ合いを残しながら、ガラス張りの明るくオープンなスペースを作り出します。施設のテーマは「つなぐ」、境町とアルゼンチンの友好の歴史を紹介し、物産の展示スペースやギャラリーが設けられます。



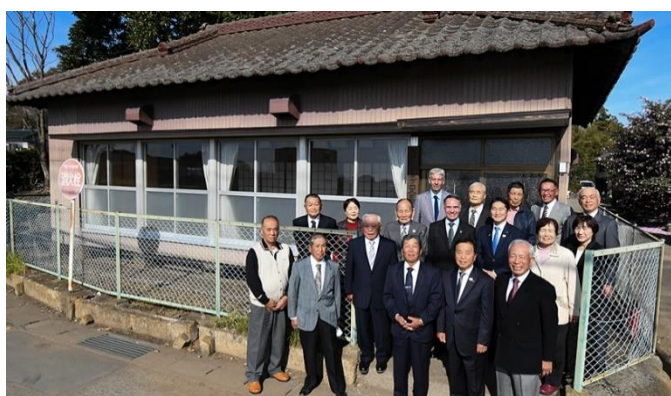
新モンテネグロ会館完成イメージ図

今後は境町主体で運営が行われます。折から東京オリンピック・パラリンピックではアルゼンチン選手団のホストタウンを務める境町の友好のシンボルとして新モンテネグロ会館が今後益々の友好発展に寄与することとなります。



改築中の会館前：左から橋本町長、野本勇作氏、ベロー大使、田中重男氏、バビーノ公使

(きむら としお：当協会常務理事)



改築前のモンテネグロ会館

2018年11月撮影

完成イメージ図・写真ご提供：茨城県境町